

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3070101914		
法人名	社会福祉法人 安原福祉会		
事業所名(ユニット名)	あいの里グループホーム2階		
所在地	和歌山市相坂651-3		
自己評価作成日	令和5年12月18日	評価結果市町村受理日	令和6年3月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会		
所在地	和歌山県和歌山市手平二丁目1-2		
訪問調査日	令和6年1月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当法人が高齢者介護において最重要と考えているのは、地域にむけた施設、地域と共にささえていける施設を目標としています。同法人のデイサービスや小規模多機能型事業所が隣接し、日常的に交流が深く、行事の際は地域の方々と共に行われていますがコロナウイルス感染の影響で今までよりは少なくなっています。日常の介護においても、本人の自己決定を大事にして入居者の方が日常生活にストレスを抱えることなく、入居者・家族の方が安心して日々を過ごしていただけるよう支援しています。そういった中で本人・家族の方が施設内で看取りを希望される場合は本人・家族・医師・医療機関・事業所スタッフと話し合い、相互に支え合いながら支援しています。日々の利用者さんとの日常をあいの里ホームページのブログに掲載している。コロナウイルス感染予防として、低濃度オゾン発生装置エアネスを使用しています。夜間睡眠リスキャンを活用しています。介護ソフト・ほのほのNEXTを活用し書面業務の短縮化・明確化に繋げている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホーム内に入ると真ん中に大きなフロアがあり、それを囲むように各居室が配置されています。窓も大きく光が差し込み、居心地の良い空間がそこにあります。利用者とのコミュニケーションを大切に、利用者職員が寄り添い、両者が共にいい環境で居心地よく過ごせるよう努められていることが感じられます。コロナ禍で今まで行っていた地域交流や買い物等の外出ができなくなりましたが、敷地内で散歩するなど外気にふれる機会を作っています。面会方法も家族の希望を取り入れながら、感染対策と並行し工夫して行われています。重度化した場合も本人や家族の意向の基に、医師や看護師と連携を図りながら看取りの支援に取り組まれています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念について職員と話し合い事業所独自の理念を作成「笑顔があふれる あなたが主役」。事業所が目指す介護について日々、職員同士で話し合い共有を行っている。	法人の理念とは別に各フロアごとにスローガンを掲げている。一日一笑、冗談を言い合ったり、利用者と笑って過ごせる時間を大切に考えられている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	コロナウィルス感染予防のため地域の皆さんとの交流は図っていません。	コロナ禍前はボランティアの来訪もあったが、現在は感染対策のため、人との接触を極力控えている。今後は、近くの古民家カフェなどに出かけるなど、少しずつ交流を広げていきたいと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ごみ捨てや散歩に行った時に下校時の小学生に挨拶を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	令和5年10月から運営推進会議を再開している。利用者さんの状況や活動報告を行い地域の方や役員、家族、包括支援センターなどから色々な情報をもらいサービスの向上に活かしている。	コロナ禍のため文書での対応を行っていたが、昨年10月より再開し、2か月に1回家族代表、地域代表、包括の方、法人からも出席し、様々な意見を集取しサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所、地域包括センターと連携を取りケアサービスしていく上でのトラブルや実践について報告し、助言して頂く事で行政との透明化を図っている。	市町村の担当者の方には、金銭問題等わからないことは電話で聞いたり、時には出向いて相談することもあり、協力関係を築けるよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設け会議をおこなっている。年2回の身体拘束の研修は各ユニットで行っている。	身体拘束の研修は年2回行っている。常に本人本位の対応を行っており、眠りスキャン導入で変化があれば即駆けつけて対応することで転倒防止にもつながり、身体拘束しないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修を受けた職員が内部研修に参加し報告し、他の職員に虐待防止の徹底を図っている。防犯カメラを設置し虐待防止に役立てている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見の必要性は理解している。職員同士で話し合いをしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	必ず入居前、事前に家族や担当ケアマネと連絡をとり話し合い十分な説明をさせて頂き、グループホームについて理解したうえで契約をしている。改正時にはまず電話で一報を入れ、改正内容についての同意を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様には施設訪問時や電話の時に常に問いかけ何でも言ってもらえるような雰囲気づくりをしている。家族の方の意見、要望等は職員同士で話し合い、実現に向けて考えている。	普段からご家族様と面会の機会に利用者様の様子を伝え又お話を伺っている。本人様からの要望にもできることはどんどん取り入れ対応を行っている。以前は家族会を行い、利用者と家族が共に食事をしていた事もある。家族等からの要望もあり、開催の検討をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	現場で起こったトラブル、スタッフの不満、入居者に対する介護に対する不安、入居者家族の要望等は管理者を通じ聞き出し解決に努めている。	毎日の申し送りの際に意見を出し合い、又、月1回のケア会議でも職員の声を集約している。管理者と職員との密な関係があり、利用者についての意見も出てくるため、その後のケアに結びついている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	幹部が各事業所を巡回し管理者や職員と個別に話す機会を持ち、個々の考えや思いを聞き状態把握につとめている。職員の些細な意見でも聞き入れ検討している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コンサルティング事業の方を呼び職員研修やリーダー研修を実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	アンガーマネジメント研修や感染対策研修、施設職員研修会等参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接で生活状態を把握するよう努めている。また、本人にもホーム内を見学してもらい、生活環境が変化する事の不安等、できる限り軽減出来る様、努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の困っていることや支援してほしい事等をよく聞き取りサービス導入時に計画に盛り込んでいく。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者、事前訪問時等本人家族の想いを理解し、バックグラウンドを活用しながら、本人が安心した生活を送れるよう支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者が、日常生活に役割を持って過ごせるよう、職員同士で話し合い、洗濯、掃除、花の水やり等を一緒に行う事で、本人が生き生きと日常を過ごせるよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とは連絡を密にとり本人を支えていく上で協力していける関係を築いている。家族と一緒に考え、意見を言い合える関係を作っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ感染症の影響で玄関での面会になっている。家族・友人が面会に来られている。	知人からの手紙やはがきに返信したり、電話連絡を取るなどの支援を行っている。今後は、希望があれば外泊なども再開していきたい。「白髪染めのために美容院に行きたい。」と言う利用者の希望を検討されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が自然に相互に支える雰囲気を日常生活の中で出すようにしている。又、お互いの意思疎通が上手くいかない時でも、スタッフが介入し関わりをもるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、施設、病院の紹介等の支援を行ない、家族の方が安心して利用者の方が生活できるよう工夫している。小規模多機能等を経由しながら、グループホームの再入所も可能という事を家族の方にも話している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で声を掛け把握に努めている。意志疎通が困難な方には家族様や関係者から情報を得るようにしている。	入居時には統括と管理者が、家族からの説明で、生活歴を含め意向の把握に努めている。又、入居後は、傍でケアにあたる職員が、会話やご様子から本人の思いの把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの馴染みの暮らしを本人・家族に聞いたり担当の居宅支援専門員に情報をもらいこれまでの生活の把握に努めている。その他一人一人の生活の中で知り得た情報も会議・申し送り等で話し合う。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者一人ひとりの生活リズムを理解すると共に行動や小さな動作から感じ取り本人の全体像を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画を作成するにあたり、会議や申し送り等で話し合いニーズを抽出している。又家族、本人とは電話や訪問時に話を聞き意向を取り入れ介護計画の作成に当たっている。	モニタリングを定期的に行い、職員を中心に、医師や看護師とも連携しながら、その人にあつたケアを話し合っている。介護計画がより良いケアに繋がるよう、意見やアイデアを出し対応を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員の間で申し送りノート・ケアパレットを利用して情報の共有をして個々の気づきやニーズの変化等を話し合いニーズの変化があればその都度見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	協力医療機関を設け体調急変があつた場合は、医療をうけることができるよう柔軟に対応している。グループホームの待たれている方も多いので法人内で連携を行う場合もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	美容院から訪問美容に来て下さり散髪を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に家族の希望を聞き、施設の協力医か以前のかかりつけ医の継続かを決めてもらい対応している。緊急時に専門医の受診が出来ない場合職員が付き添い、状態を説明し対応している。	かかりつけ医は、本人や家族の希望があれば、今までのかかりつけ医に継続されることもある。専門医の往診も受けられる体制があるが、必要があれば受診の送迎等を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションとの契約に基づき、日頃の健康管理や医療面での相談、助言対応を行ってもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後、利用者の状態について聞きに行き事業所内で対応可能な段階でなるべく早く退院できる様にアプローチしている。認知症の進行を防ぐためにも早期退院に向け対応行う。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に伴う意思確認書を作成し事業所が対応し得る支援について説明をお行い相互に納得し支援を行っている。本人や家族様の意向を踏まえ医師、職員が連携をとり安心して納得した最期を迎えられるように取り組んでいる。	入居時に、看取り対応を行っていることを伝えている。重度化した場合、本人や家族の意向をふまえ、医師、看護師、職員が連携をとりながら、納得した最期を迎えられるよう、チームで取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は救命救急法の講習を受講し対応方法を学んでいる。緊急時の連絡方法及び対応方法についてはマニュアル化し職員同士で共有にできるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署に協力依頼し、年2回入居者と共に避難訓練を独自に行っている。地域の方にも協力してもらえらるようにつとめている。消火器や消火用散水栓の点検も行っている。	火災を想定した避難訓練を、日中と夜間で想定し、年二回行っている。利用者も職員と一緒に避難誘導に参加している。水害時は、垂直避難することを全職員が認識している。	現在、準備段階の備蓄体制について、早急に整うことを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声かけに配慮して排泄、入浴、更衣時等、援助が必要な時も本人を尊重して行っている。職員同士も声かけに配慮することを注意し合っている。	一人ひとりの誇りやプライバシーに配慮し、声掛け等も工夫している。特に、排泄に関しては自立支援を尊重し、細やかなケアを実践している。職員間でさらにより良いケアを目指し、注意し合いながら対応を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々に合わせた声掛けを行い、本人の不安軽減を図っている。本人の思いに否定的にならず、しっかり向き合いながらコミュニケーションを図っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者本人の思い、家族の思いを尊重し、習慣やペースを把握する。体調や気分を考慮し、本人が安心して過ごせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理容を利用されヘアスタイルも本人の希望を聞き、カットして頂けるようにしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	その日のメニューは入居者と相談しながら決めるようにしている。また調理、盛り付け片付け等も入居者と共に行い職員と入居者が同じテーブルを囲んで楽しく食事できるような雰囲気づくりも大切にしている。	以前は、利用者も一緒に買い物にも行っていたが、現在は、食材を業者に発注しているため、利用者はできることを手伝っている。冷蔵庫の中の食材を見て献立を考え、お鍋を作ったり、おやつに鈴焼を食べたり、食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの体調と1日の食事摂取量を把握している。ラコール、トロミ、ミキサー食等、本人の状態に応じ提供出来る様に支援している。又、水分補給についても記録を行い支援につなげている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の入居者の自立度、口腔状態に合わせて対応している。就寝前は義歯の洗浄を行っている。希望により訪問歯科の受け入れもしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ケアパレットで排泄チェック・把握している。その人に合ったパターンで声掛けしトイレ誘導している。	各部屋にトイレがあり、プライバシーが守られた支援がなされている。タブレットで排泄周期を知ること、適切な誘導ができ、パットの枚数が減るなど自立にむけた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事内容として乳製品、繊維質の多い食材を提供し、ラジオ体操を積極的に行ない水分補給に努めて便秘予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	今までの生活歴、本人の希望に合わせて対応し入浴を拒む方には言葉かけや対応を工夫し本人が納得して入浴してもらえるように支援をしている。	入浴は、本人の希望にそって週2～3回行っている。入浴好きの方が多く、坪庭を眺めながら季節に応じてゆず湯を楽しまれる時もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の体調や表情、希望等を考慮して休息がとれるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居時服用している薬の説明書を提供してもらい職員が内容及び服作用を把握できるようにしている。変更があった場合体調変化がないか確認している。又、3回チェックをし、誤薬しないようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野や生活歴、持っている能力から力を発揮してもらえるようできそうな仕事を頼み支援している。そうすることで自立支援を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウィルス感染予防の為外出はできませんが庭に出て散歩やゴミ捨てるの同行していただいています。	コロナ禍以前は、買い物や戸外で行事を行っていたが、現在は、敷地内の散歩や洗濯物を干すときに外気に触れる機会を得ている。また、同じ法人内の広場で花見をして、花見弁当を楽しむ機会もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナウィルス感染予防のため、買い物に行くことはありませんでした。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族と相談し電話の対応ができる時間帯にはいつでもかけられるよう配慮している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った飾りをスタッフと一緒に作り飾っている。ベランダに花を植え世話が出るようにしている。生活感や季節感のあるものをうまく活用しながら暮らしの場を整えている。	共用空間には、利用者が作った温かみのある作品が飾られている。また、温度計湿度計を活用し、居心地よく過ごせるような工夫をしている。時にはモップ掛けをするなど、利用者も一緒に掃除を行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングに長いソファを置き居心地の良い空間を作っている。共有空間の中で他の人の気配を感じながらも少し離れたところで一人になれる場所をつくっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には安らぎを得るよう馴染みの物、長年愛用した家具を持込まれ居心地のよさを配慮している。	自宅で使用されていた仏壇やタンスなどを持ちこみ、本人の希望と動線を考えて配置している。必要に応じてマットを敷き、手すりを設置する等安心して過ごせるよう工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各部屋の横に名札をいれ本人が自分の部屋と確認できるようわかりやすくしている。洗濯物畳み、干し、リビング掃除、ゴミ捨て等生活全般を職員と共にすることで安全かつ自立した生活が送れるよう支援している。		